

第1回学校評議員会記録

1 日時 令和8年5月8日(金)9:00~11:40

2 会場 静岡大学教育学部附属特別支援学校 視聴覚室

3 参加者

(1) 学校評議員

浜松学院大学特任教授

静岡ロータリークラブ 会長

三幸株式会社有度山総合公園運動施設副統括責任者

静岡ダウン症児の将来を考える会会長

元静岡市立小学校長

元静岡県立特別支援学校長



(2) 本校職員

校長、教頭、部主事(小・中・高)、教務主任、進路指導主事、教育実習担当

4 日程と内容

(1) 校内参観

(2) 学校概要説明

(3) 協議

5 協議内容

学校経営目標の3つの柱「安心・安全」「確かな学び」「附属学校としての役割」について、今年度学部で「やってみよう」と考えている学習等について、グループに分かれて意見交換を行いました。充実した学校運営に向けて、活発な意見交換が行われました。

【グループ1】 小学部(・評議員さんからの意見)

○クラブ活動について

- ・小学部で大きな大会に出られるのが良い。
- ・親子で楽しめることも大切。
- ・外とつながっていく経験が良い。
- ・小学部の段階から、学校の外に居場所を作っていくことが卒業後の生活につながっていく
- ・まずは純粋に楽しむこと、経験が一番大事。
- ・フライングディスクのように、生涯を通じて楽しめるような競技に触れさせたい。
- ・中、高等部でも紙飛行機ができるが良い。



○他学部との関わりについて

- ・プレイヤードに遊具がなくなったことで、使いやすくなって遊びやすい。
- ・以前は、高等部の生徒が小学部の児童と手をつないで賤機山に登った。城北公園にも、

一緒に行ったことがある。

- ・小学部だけ別の棟にあるため、つながりを意識してもつことが大事。
- ・年齢差がある中で、小学部と高等部、小学部と中学部とペアを組んでいるのが学校独自で良い。

○危険予知について

- ・純粋な子どもたちなので危険予知は大事。
- ・火が熱い、危ないという体験が大切。
- ・「知らない人にはついて行かない」と教えても、弱い老人を装って誘い、親切心を利用するケースもある。対処の方法をどう教える？→今は、性差関係なく伝えていく必要がある。
- ・ヘルプの出し方の支援。ヘルプカードを付けているとかえって狙われることもある。
- ・外部講師の活用は、学校職員とは違う視点で繰り返し教えてもらうと効果的ではないか。
- ・学校で繰り返し訓練したことが身に付いていて、家で地震が起きた際、携帯を持ってテーブルの下にもぐっていた。
- ・放送を使わない訓練も良い。肉声でやると実際に近い場がより想定できるのではないか。

【グループ2】 中学部（・評議員さんからの意見）

○サポートブックについて

- ・生徒自身が自分の頑張っていること、大事にしていることが見えるのは良い。
- ・客観的に自分を評価できるのは、発達が小4程度から。実態を把握し、難しい生徒については、自分の「好き」、「嫌い」を広げていくことから始めていくと良い。



○キャンプを島田から焼津に変更したことについて

- ・附属は県立学校に比べて、行き先や活動を柔軟に設定できるのではないか。生徒の「安心・安全」を第一に、生徒の学びにつながる行き先や活動を設定してはどうか。

○総合的な学習の時間について

- ・昨年度の竹の活用について広がりがあったのであれば、視点を変えて継続するのも良いのではないか。
- ・継続することで2・3年生については、レベルアップを期待できる。

【グループ3】 高等部（・評議員さんからの意見、*学校から）

*「地域を舞台にして子どもたちが関わりや協働することを学ぶ機会としていきたい。実際にどのようにアピールしていったらよい機会を得ることができるか知恵をお借りしたい。

- ・三幸株式会社で管理している長崎新田グラウンドでは、大雨等により仕事がイレギュラーに変化することがある。その場合に不安定になったり、イライラして声が出たりすることがあり、利用者が怖がってしまうことがあった。普段良いところがたくさんあるので、そこが伝わるようにしていきたいというのが会社としてもある。



- ・ロータリークラブでは、特に秋まつりでこの学校と関わらせてもらっている。そこで感じるのは、確かに小学生ぐらいを対象としたイベントは多くあるが、高校生、大人を対象としたイベントにはあまり関わってこれていない印象がある。立派なものも作られているので、販売に貢献できるか考えたい。
- *秋まつりでは、静岡英和高校の生徒さんもボランティアで関わってくれている。そういった関わりも大事だと思う。
- ・野菜は、お客様としても利用目的が明確なので、販売しやすいと思うが、陶芸製品は、販売が難しいのはわかる。野菜とセットに…、鉢植えのようにする…などお客様が利用している姿を想像できるような仕掛けも必要。
- ・陶芸は、地域の方と一緒に作る時間があるのも良いのかもしれない。一緒に作ったり、作るのを生徒が手伝ったりすることで、生徒のすごさがお客様に伝わって良いのではないか
- ・せっかく関われているので、テニス大会の景品等にして…というのも一案としてある。
- ・野菜の販売をしてもらっているおかげで、テニス場利用者が学校の様子を気にする(運動会の練習、持久走等)言葉も聞かれる。以前は関わりが少なかったが、販売会はとても良いきっかけになったと感じている。
- ・11日にロータリークラブの会議があるので、秋まつりや高等部製品の販売に関する事等、各企業に興味がないか声を掛けてみたい。

6 次回連絡 令和9年2月16日(火)予定

7 閉会